

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉本 有紗	職名	講師	学位	人間環境学 (修士)
----	-------	----	----	----	------------

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学 心理学的介入 心理リハビリテーション	高齢者臨床 臨床心理学的援助 役割意識 心理劇

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の臨床心理学的理解及び臨床心理学的援助 ・対人援助場面における自己と他者の行動及び心理の理解を促す研修のあり方

担当授業科目
初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) ヒューマンサービス基礎演習 (前期) (福祉学科) 心理学概論Ⅰ (前期) (福祉学科) 発達心理学Ⅱ (前期) (福祉学科) 発達臨床心理学演習 (前期) (福祉学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 社会心理学 (後期) (福祉学科) 高齢者臨床心理演習 (後期) (福祉学科) コミュニティ心理学 (後期) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2020年度は15～16名のグループを1グループあたり4回、全3グループを担当した。心理学研究法を題材とし、研究デザイン、実証的データのとり方、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。最後に一つの実験報告レポートを作成させた。本年度は遠隔授業であったため、家庭でも可能な実験デザインを提案し、人の心理や行動に関心を向け、問題意識を持つ、観察の意義を意識する、実証的データの分析への意欲を高めるなど、専門科目への導入がスムーズに進むよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】</p> <p>本演習では、ヒューマンサービスの基礎となる対人場面での援助につながる自己理解の向上を目指した。2020年度は全1年生をAクラス3グループ、Bクラス3グループの計6グループに分け、1グループ約12名に分けた。教員3名は、各々Aクラス1グループ、Bクラス1グループの計2グループを担当した。本年度は遠隔授業であったため、自己理解を深めるワークを通して一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回授業への導入として課した質問を通して全ての学生の意見を聞く機会を設けた。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況を把握し、次回フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。</p>

<p>授業科目名【 心理学概論Ⅰ 】</p> <p>本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究手法、基礎となる理論や著名な研究、導き出された理論等、心理学の概論について解説を行った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。本年度は遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。</p>
<p>授業科目名【 発達心理学Ⅱ 】</p> <p>本講義では、青年期から老年期までの生涯発達心理学について、特に老年期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。本年度は遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。</p>
<p>授業科目名【 発達臨床心理学演習 】</p> <p>本演習では、事例論文についての解説ののち、論文講読を行った。発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を提供し、理解を深めるよう促した。本年度は遠隔授業であったため、ワークシートを作成し、シートに沿って、事例論文の特徴をつかみ、内容を吟味できるよう工夫した。論文の比較についての課題を課すなど、発達臨床分野での研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】</p> <p>本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2020年度は15～16名のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。乳幼児の発達に関する文献を課題図書とし、課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課した。ワークシートを作成し、シートに沿って課題に取り組めるよう工夫した。</p> <p>対面授業期間は、学生同士がグループで発表や意見交換ができるように促し、遠隔授業期間は、各学生より提出されたワークシートの内容を次の回までにまとめ、他の学生の意見を共有できるよう、学生に資料として提示した。また、最後に一つのレポートを作成させ、レポート能力の向上を実感できるようにした。</p>
<p>授業科目名【 社会心理学 】</p> <p>本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて例示するよう促し、知識の定着を図った。本年度は少人数の受講者であったため、対面授業期間も、遠隔授業期間も、毎授業の初めに出席確認を兼ねて対話し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 高齢者臨床心理演習 】</p> <p>本年度は受講する学生は0名であった。</p>
<p>授業科目名【 コミュニティ心理学 】</p> <p>本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。前半は、教授内容を整理したプリントを配布して解説し、後半はコミュニティ心理学実践についての事例研究論文を講読した。対面授業期間、遠隔授業期間共に、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。また、前回の振り返りとともに小レポートの学生の意見を紹介し、学生の理解が深まるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 専門研究Ⅰ 】</p> <p>本年度は受講する学生は0名であった。</p>
<p>授業科目名【 専門研究Ⅱ 】</p> <p>研究テーマの決定、関係する論文・文献の検索と収集、データの分析の指導を行った。また、目的から考察に至る文章の添削、研究レポートとしての体裁を整えるまでの指導を行った。遠隔授業による指導であったが、学生が手に入れにくい学内資料や文献情報を提供したり、オンラインで議論し合うなど、学生の研究レポートの質が高まるよう工夫した。1年間を通して、学生は自分自身で選択した研究テーマに基づいて研究を進め、研究レポートを仕上げる事ができた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本心理臨床学会 日本臨床心理劇学会 日本リハビリテーション心理学会 日本臨床心理士会 日本発達心理学会 日本心理学会	監事 (2012年4月～現在に至る)	2001年～現在に至る 2001年～現在に至る 2002年～現在に至る 2004年～現在に至る 2007年～現在に至る 2008年～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学大学院人間環境学府付属総合臨床心理センター	研究員	2020年4月～2021年3月 (1年間)
大分県中津児童相談所	非常勤心理判定員	2020年4月～2021年3月 (月1回)
大分県中津児童相談所令和2年度施設支援専門事業「LSW研修」	講師	2021年3月5日 (2時間)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

(大学)

公開講座委員会 委員

職員研修委員会 委員

(学科)

ヒューマンサービス基礎演習 担当

福祉学科ニューズレター ワーキンググループメンバー